

高等学校芸術科（書道）採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 〔例〕										採点上の注意	配 点
一	問一	ア いつえいひ											各 2 × 5
		イ しょうばん											
		ウ しゅくいんめい											
		エ まおうたいはくしよ											
		オ てかがみ											
	問二	ア 波磔											各 2 × 5
		イ 造像記											
		ウ 張猛龍碑											
		エ 樂毅論											
		オ 本阿弥光悦											
	問三	ア 文房で使われる用具・用材の中で特に重要な筆・墨・硯・紙の四種。										内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	各 3 × 5
		イ 文字や文様などが刻される面に紙を貼り、紙上から墨で写し採ったもの。											
		ウ 印材の左側面に刻される、刻した人の名前や場所、日付などのこと。											
		エ 仮名の書に多く用いられる、表面に加工や装飾を施した用紙のこと。											
		オ 文字の繰り返しを表す記号。「ㄥ」「々」「ゝ」などのこと。											
	問四	①	馬	②	書	③	吾	④	東	⑤	作		各 2 × 5
	問五	ア ていぎかひ											2
		イ 鄭道昭											2
		ウ	①	美	②	徒	③	学	④	実		各 2 × 4	
		エ	空間を包むように大回りに運筆し、点画には丸みをもたせている。用筆は力強く伸びやかである。										内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。
オ		開通褒斜道刻石											2
問六	ア 男手										男手は、真仮名もよい。	各 2 × 6	
	イ 万葉仮名												
	ウ 女手												
	エ 平仮名												
	オ 変体仮名												
	カ 片仮名												

高等学校芸術科（書道）採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 〔例〕	採点上の注意	配 点	
一	問七	(名称) 高野切第一種		2	
		ア (特徴) 緩急、抑揚の変化に富み、大きく動く運筆はゆとりと優雅さがある。自然で無理のない墨色の変化があり、潤筆と渴筆の変化は紙面に奥行きや立体感を与える。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	3	
		イ 多 以 之 良 春		各1×5	
		(平仮名) はるかすみたたるやいつこみよしののよしののやまにゆきはふりつつ		2	
	問八	ウ (大意) 春の霞は、いったいどこに立ったというのだろうか。この吉野の山にはまだ雪が降り続けている。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	5	
		ア 文章はいくつかの言葉を並べて、自分の考えや気持ちを表現するが、書は一字だけで自分の心を表現するものである。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	4	
二	問一	作品に押されている印に着目させる。中国では作品を収蔵したり鑑賞したりした証として、印を押す習慣があり、これらの印を読み解くことで、伝来や評価の歴史を知ることができる。「蘭亭序（神龍半印本）」には、婚礼道具の印だと分かる印や、呼び名の由来となった印、清時代に所蔵していた皇帝の印も押されている。これらのことにより、長年にわたって大切にされてきた作品であることが分かり、歴史的価値を考えさせることができるため。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	10	30
	問二	(文字) 天朗気清 (理由) 行書の特徴である点画の連続、筆順の変化がよく分かる部分であるから。また、蘭亭序の特徴である筆路がはっきりとして、伸びやかな線で書かれており、流麗な運筆の中にも緩急や筆圧の強弱が見られる部分であるから。	問いを正しく捉えていれば、内容は異なってもよい。	20	

高等学校芸術科（書道）採点基準

3枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 〔例〕			採点上の注意	配 点	
三	問一	時間	学習活動	指導上の留意点	問いを正しく捉えていれば、内容は異なってもよい。	40	50
		一時間目	・名筆や現代の書の作品の鑑賞を行い、制作者の表現の意図と工夫を捉える。 ・既習の鑑賞の観点を確認し、現代の書の鑑賞について新たな観点を発見する。 ・自身の表現の意図を基に、創作する言葉を選定する。 ・自身の表現意図及びそれに基づく構想、その実現のための表現の工夫についてワークシートに記入する。	・既得の知識、観点を基に、作品の特性を捉えさせる。 ・書の美の多様性に気付かせる。			
		二時間目	・選定した言葉をグループで説明し合い、制作者の表現の意図と工夫について相互批評・意見交換をする。 ・意見交換の内容を踏まえて、自身の表現の意図、構想、表現の工夫を再構築する。 ・意見交換、表現の工夫の見直しを踏まえて、試作や練習を行う。	・他者との交流を通して、自分の考え方を自覚するとともに、多様な捉え方に気付かせる。 ・書の美の多様性を意識させ、最初のイメージと異なるイメージの表現となってもよいことを助言する。			
		三時間目	・試作した作品について、グループで意見交換し、自分の表現のイメージに近付けるための改善点を見付け出す。 ・自身の創作の表現の意図、表現の工夫を再構築する。 ・清書の創作を行う。	・名筆や現代の書の表現の鑑賞を生かし、漢字と仮名の調和した線質を踏まえて作品を表現させる。 ・目的や用途に即し効果的な表現を意識させる。			
		四時間目	・最終作品を全体で共有・相互鑑賞する。 ・単元の活動を振り返り、最終作品及び一連の創作活動について自己評価を行う。 ・「漢字仮名交じりの書」の学習を振り返り、その特質について考える。 ・身に付けた力を今後どのように生かすことができるかについて考える。	・表現の工夫の成果を実感させる。			
	問二	他者の詩文や和歌、俳句などを題材として書の作品を発表する場合には、原則として著作権者の了解が必要となるが、授業で利用する場合は例外とされ、一定の条件を満たす場合には著作権者の了解を得る必要はないとされている。 しかし、外部の展覧会に出品したりする場合には、例外となる条件を満たさないことになることを押さえる。 原則として個人が著作者の場合はその没後、法人が著作者の場合は公表後それぞれ70年を経たものは、著作権がなく自由に利用できるとされている点を押さえる。			内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	10	
四	(臨書活動) 古典における線質、字形、構成等の要素とそこに生じる表現性、表現効果や風趣を捉え、古典の特徴を生かして効果的に作品として表現する技能。				内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	各 10 × 2	20
	(創作活動) 意図に基づいて作品を構想し、古典の特徴を生かしながら作品として効果的に表現する技能。						